

鹿児島県内の小規模事業場における長時間労働者のメタボリックシンドロームの現状とストレスの背景及びそれらの対策，並びに労働者の心身の健康障害に対する事業主と地域産業保健センターとの連携についての調査研究

主任研究者 鹿児島産業保健推進センター所長 川元 孝久

○共同研究者 同センター特別相談員 岡村 俊彦（鹿児島県立短期大学）

- 地方の中小企業（本センター平成18年度調査）
 - 過重労働，メンタルヘルス対策の不足
 - 労働者のストレスが家族のストレスに影響

- 本研究の目的
 - 県内小規模事業場を対象に労働者とその家族にアンケート調査。疲労蓄積および職業性ストレスの状況と原因を明らかにする。
 - 2008年より特定検診が義務づけられたメタボリックシンドロームの現状についても調査。

調査方法

- 時期：平成20年9月から11月
- 対象事業場：鹿児島県内の労働者数30～50人の小規模事業場1,000カ所
- アンケート対象：事業主，労働者（男女各2），労働者の家族
- 回収方法：回答後，各自で郵送

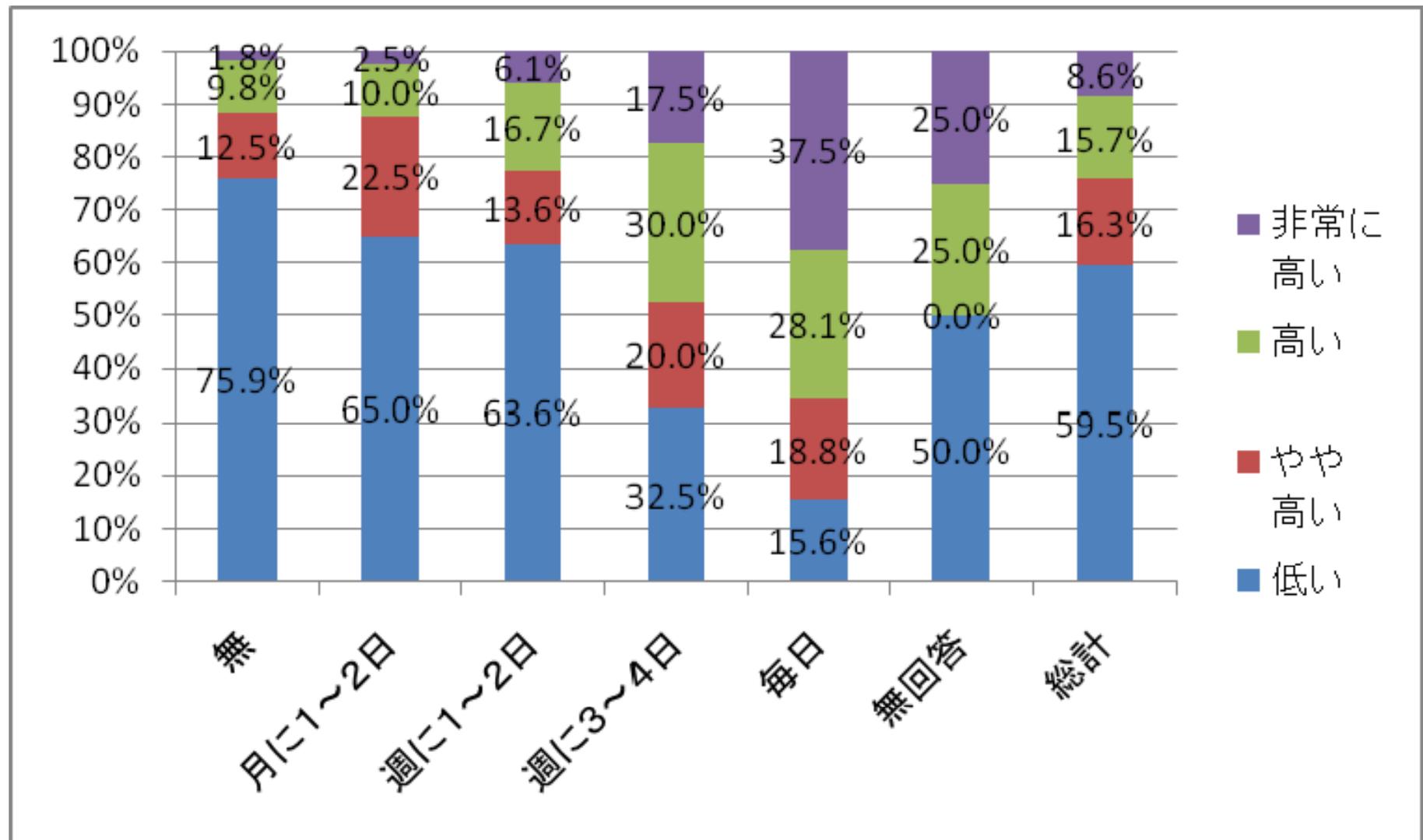
メタボリックシンドローム：鹿児島県民総合保健センター（従業員数50人以上500人以下の事業場対象）およびJA厚生連健康管理センター（農協職員と組合員）の検診結果

アンケート内容

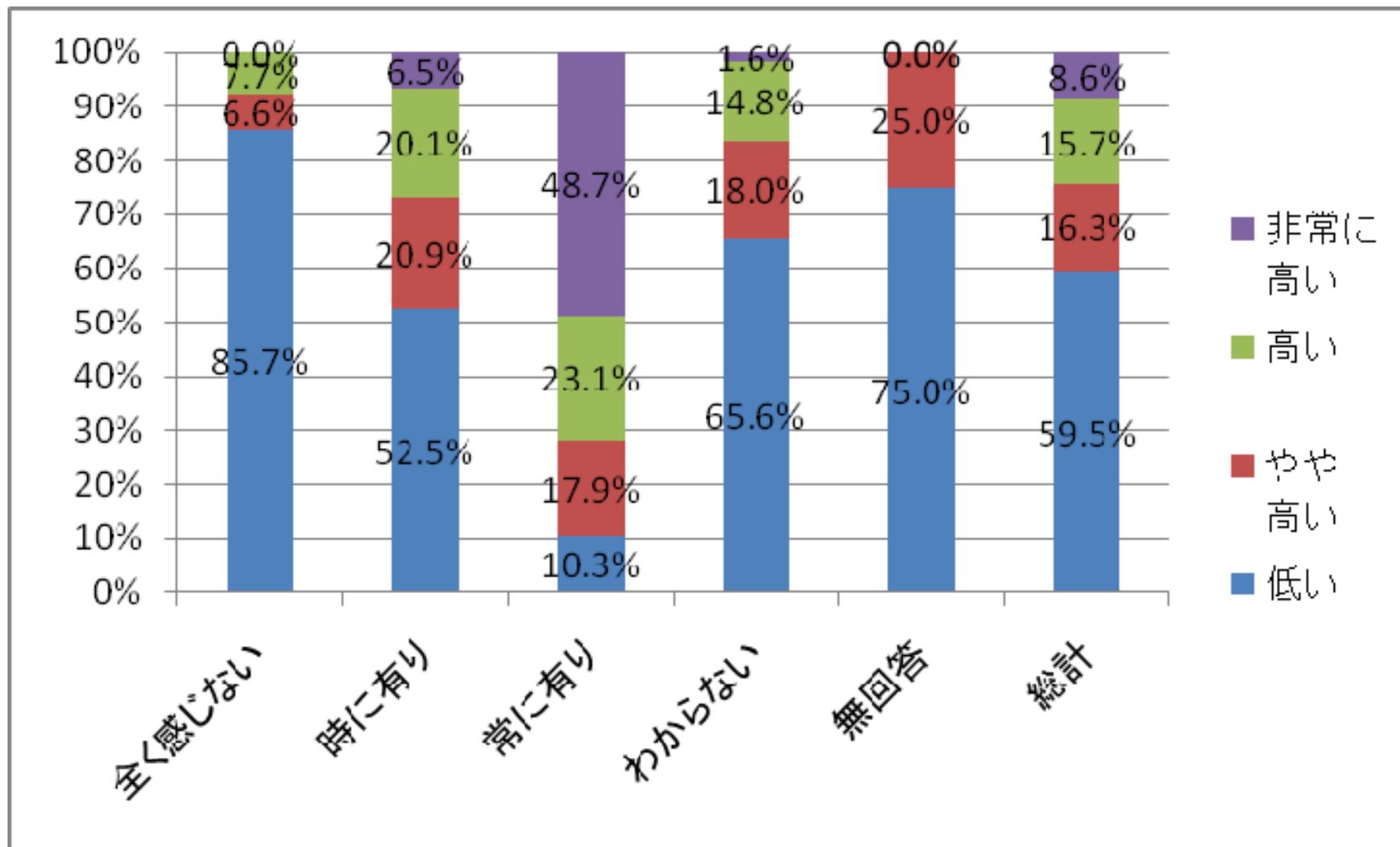
- 労働者向け（回答数346件）
 - 基礎データ（性別，年齢など）
 - 時間外労働の状況
 - 健康状態と健康診断の結果
 - メンタルヘルス対策
 - ストレスの頻度，原因，対策
 - 労働者の疲労蓄積度自己診断チェックリスト（厚生労働省）
 - 職業性ストレス簡易調査票（厚生労働省）

- 家族向け（回答数332件）
 - 基礎データ（性別，年齢，労働者との関係，就労状態など）
 - 労働者の健康状態
 - 労働者の勤務形態
 - 労働者のストレス頻度，原因，対策
 - 家族のストレス，原因，対策
 - 家族による労働者の疲労蓄積度チェックリスト（厚生労働省）

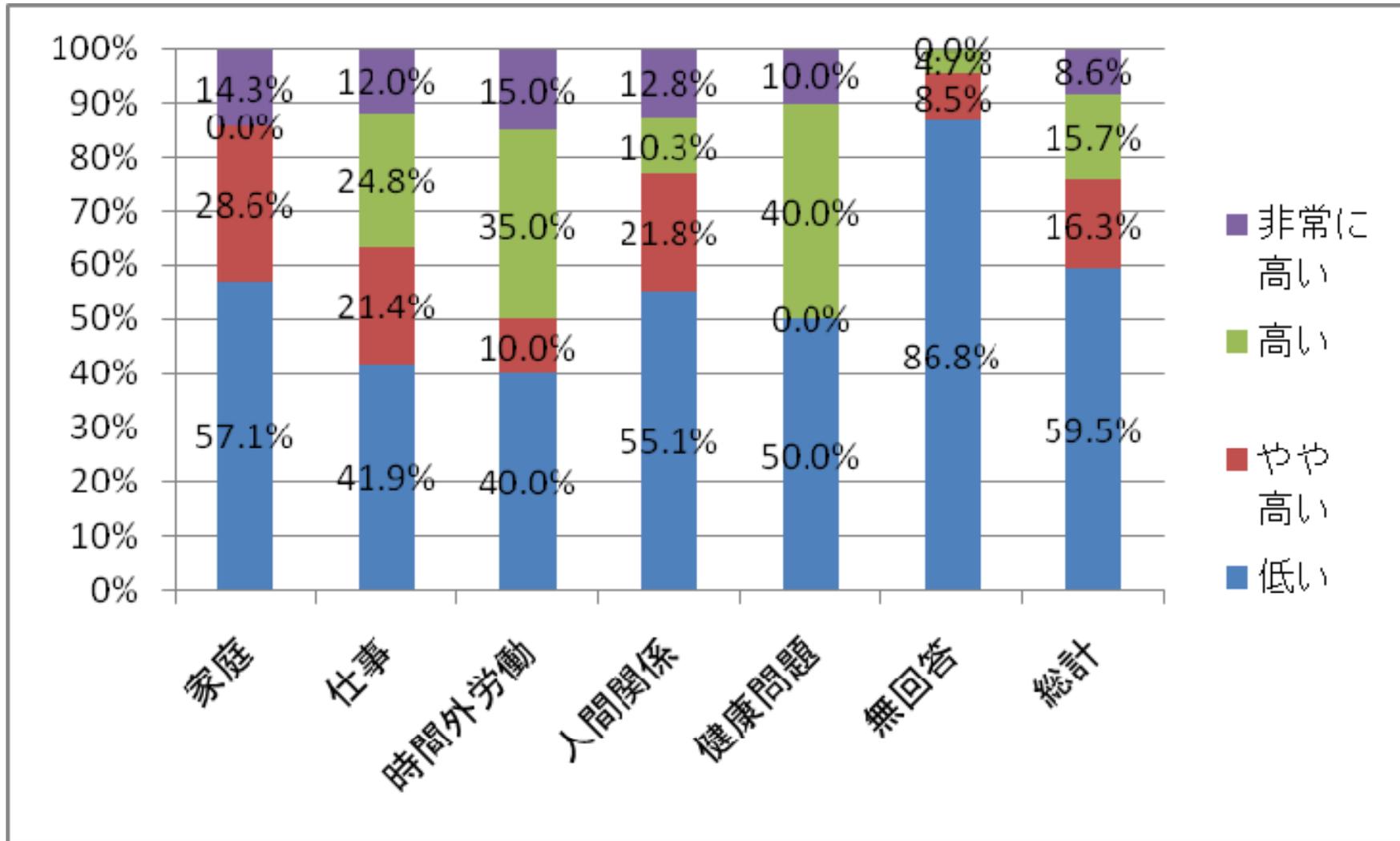
労働者の疲労蓄積度（時間外労働）



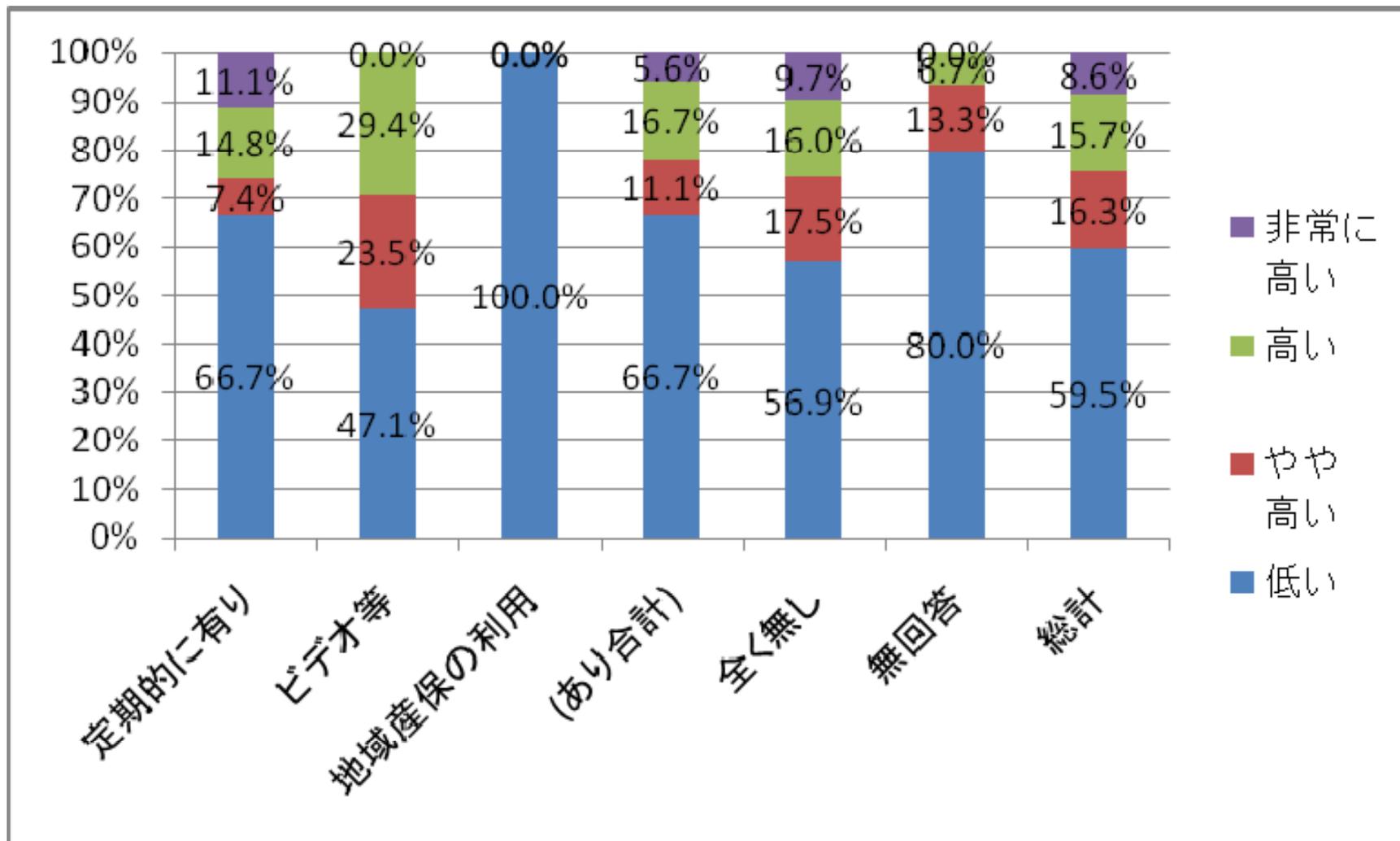
労働者の疲労蓄積度（ストレス状態）



労働者の疲労蓄積度（ストレスの原因）



労働者の疲労蓄積度（メンタルヘルス対策）

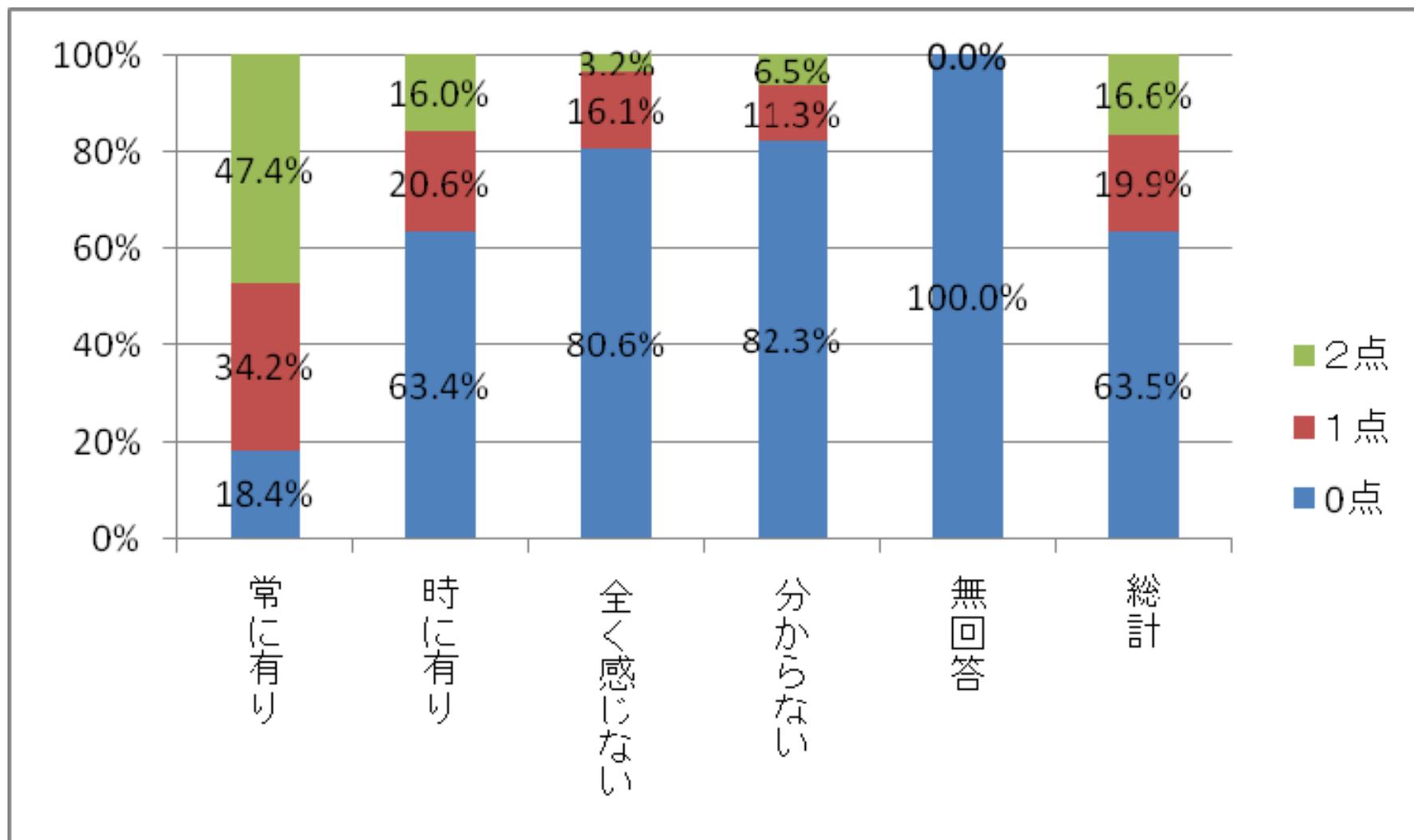


疲労蓄積度とストレス判定

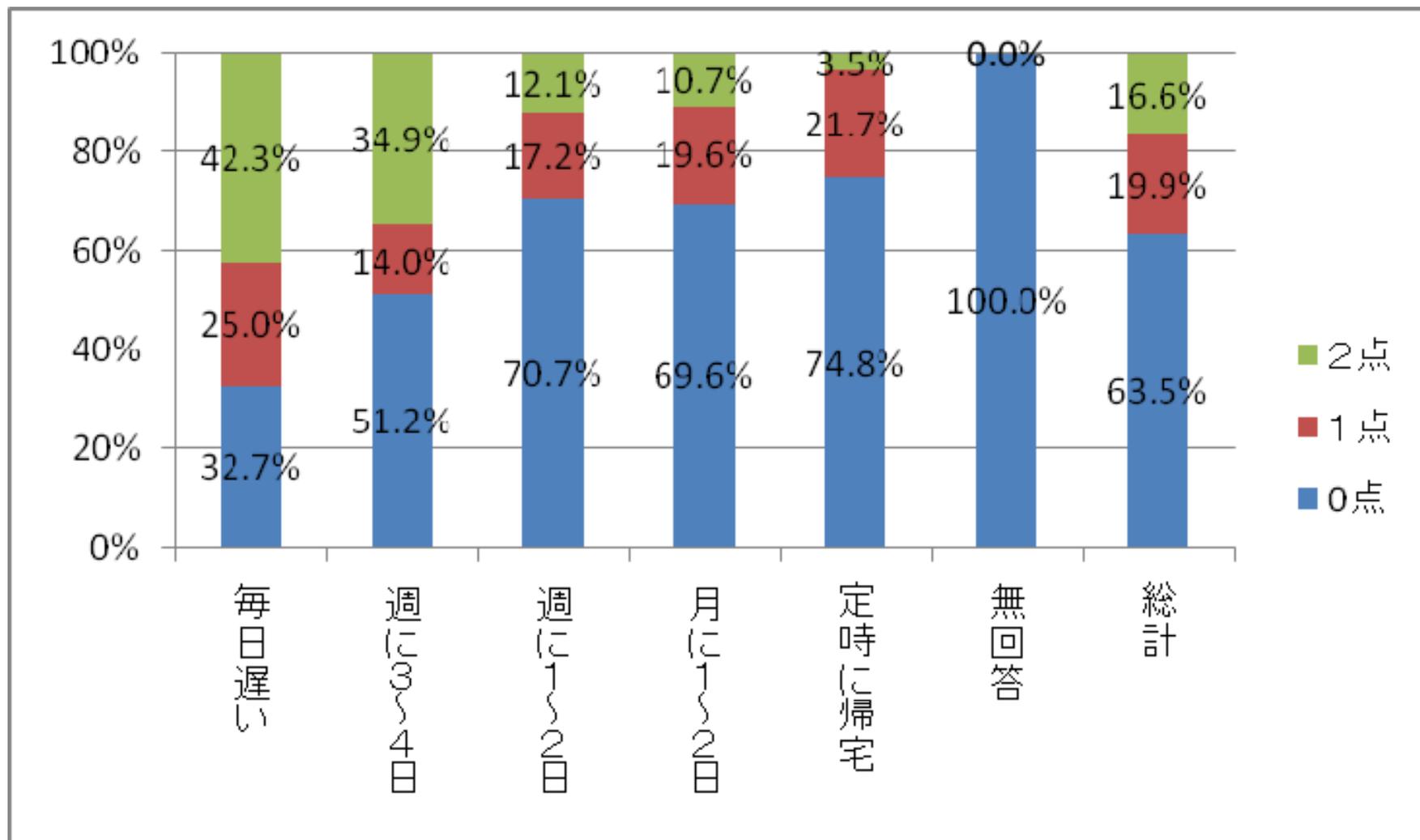
判定項目	男性	女性
A. 仕事の負担度	87.5%	100.0%
B. コントロール度	37.5%	66.7%
C. 対人関係	62.5%	33.3%
D. 仕事の適合性	12.5%	22.2%
E. 心理的ストレス反応	25.0%	22.2%
F. 身体的ストレス反応	37.5%	22.2%
G. 職場内支援度	37.5%	33.3%

疲労蓄積度4点以上で” ストレスあり”
と判定された労働者の割合

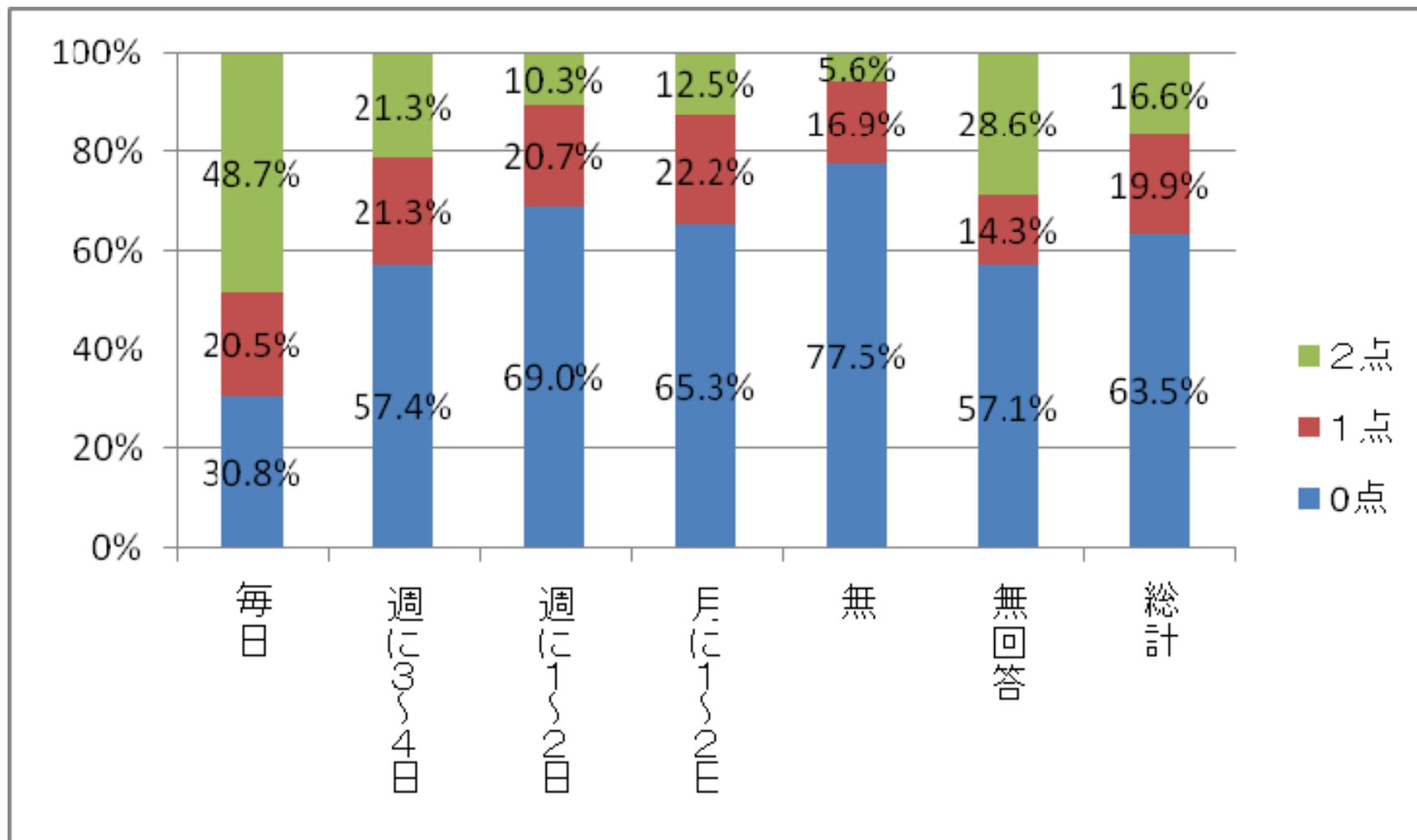
家族による労働者の疲労蓄積度 (家族のストレス状態)



家族による労働者の疲労蓄積度 (労働者の帰宅時間)



家族による労働者の疲労蓄積度 (労働者の時間外労働)



メタボリックシンドロームの状況

	職場		一般住民	
	男性	女性	男性	女性
該当者	25.3%	3.6%	23.4%	5.2%
予備群	17.6%	5.0%	19.1%	7.1%

(参考) 厚生労働省健康局「平成19年国民健康・栄養調査」

男性：該当者22.5%，予備群26.9%

女性：該当者7.3%，予備群9.9%

まとめ

- 時間外労働をはじめとした過重労働が頻繁にみられる
→ 労働者の疲労蓄積, ストレスに
- メンタルヘルス対策は行われていないことが多い
→ 疲労蓄積とストレスが悪循環に
- 女性労働者は男性労働者に比べ, 対人的, 組織的サポートはあるが, 仕事のそのものがストレスサーになりやすい
- 労働者の疲労蓄積が家族のストレスに繋がっている
- メタボリックシンドロームは該当者, 予備群とも比較的少ない